

令和5年度 社会福祉法人 進和学園 事業報告

令和5年度は、基本理念「本人中心」のもとに、“一人には一人のひかり”の精神をもって、七つの輪（ご本人、ご家族、地域社会、ボランティア、行政、職員、法人役員）の連携のもと、障がい部門、保育園部門、学童保育部門では、利用者ご本人と子どもたちの支援充実のために、法人職員が各事業活動に一丸となり取り組みました。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）の影響を受けて4年目となり、ようやく国は、コロナを令和5年5月8日より、感染症法上の2類相当から季節性インフルエンザと同等の5類へ移行しました。課題であった濃厚接触者等の諸条件が緩和されました。しかし、当法人内施設では、8月から10月にかけて、はばたき進和、やましろホームでクラスターが発生、11月から12月にかけては、あさひホーム、万田ホームでクラスターが発生しました。さらに令和6年1月にはやましろホームにおいてインフルエンザの感染拡大がありました。施設・事業所では、高齢、基礎疾患等で重症化リスクが高い利用者の命と健康を守るため慎重に対応していくことが求められており、県市行政の助言指導等をいただきながら、感染拡大防止対策に取り組みました。嘱託医の北山先生のご配慮によりコロナワクチンの確保とともに施設内の集団接種を、令和5年度内に6回目接種（6月）、7回目接種（12月・1月）に希望するご本人、職員に対して実施出来たことは感染予防、重症化を防ぐ上で大変効果がありました。そのような中で社会・経済活動は再開され動き出しました。コロナがもたらした人や地域の交流が制限された4年間は、人々の気力、体力や地域間のコミュニケーションに大きな影を落としたことは否めません。進和学園としては感染予防対策マニュアルを随時更新し、ご本人の日中活動や生産・販売活動、文化・スポーツの活動等を通して利用者ご本人が地域、社会へ参加できる活動を再開しました。

令和5年度は、依然として不安定な世界情勢と環境エネルギー問題からくる光熱費、食費、原材料費等をはじめとする物価高騰は、社会福祉事業と就労支援事業の運営費を圧迫する要因となりました。県市行政からの助成金を活用しましたが、収支状況は例年よりも増して厳しい状況になりました。

昨今、全産業で人手不足感が高まっている状況ですが、コロナ5類移行後の企業の活動再開と賃金上昇の機運に伴い、福祉業界における人材確保の厳しさが一層増しているところです。進和学園では採用人事サポートチームの取組みが一定の効果を上げているところですが、人口減少社会を迎えたことで今後の様相は変わりつつあります。引き続き福祉・介護職員処遇改善事業については、現行加算、特例加算、ベースアップ加算を合わせて、障がい部門は支給方法を職務手当として月給及び時給単価の増額に努めました。保育部門、学童部門についても支給条件に若干の違いはありますが、賃金改善の目的を果たしました。

障がい部門は、利用者ご本人の生活支援・就労支援・相談支援を推進しました。生活支援は、年々進む重度化、高齢化の波を受けての健康管理と安全確保に努めるとともに、コロナ下の制限もありましたが、出来る限り地域生活を支えるセーフティネットとしての拠点機能の対応に努めました。特に加齢による身体機能の低下、嚥下障害のリスク回避は重点課題になっています。

就労支援は、年々厳しくなる経済状況の中で工賃確保という諸課題に取り組み、新商品の開発や作業種拡大の準備に努めました。特にしんわルネッサンスでは新規で製パン作業室の整備を図りました。コロナ5類移行後の販売イベント等にも積極的に出店しました。

相談支援は、生活・就労両面にわたる支援などご本人の多様化するニーズと課題に向き合い支援充実に努めました。特に平塚市基幹相談支援センターが令和6年1月に立ち上がり、委託相談事業所として連携強化に努めました。

権利擁護、虐待防止については、人権・虐待防止委員会を中心に、引き続き各施設の状況を情報共有しながら横断的に取り組みました。

保育園部門は「いずみ」「富士見」「しらゆり」の3園とつどいの広場「どれみ」が連携して、

地域に根ざした子育て支援を推進しました。コロナ 5 類移行後もインフルエンザ等の各種感染症の流行に注意しながらも、保育参加や保育懇談会を再開し、保護者との情報の共有及び保育内容の理解を深めました。

学童保育部門は「勝原学童保育会第 1・第 2」「旭学童保育会第 1・第 2」と、増える利用児童に伴い、手狭になる活動スペースの中で、コロナの影響もあり受入についての配慮も要しました。旭学童保育会第 2 については隣接する空き室を一時利用できる配慮をいただくなど、平塚市、学校等と連携し、法人内施設の応援も受けて保育の充実に努めました。

平塚市支援対象児童等見守り強化事業（居場所型）として平塚市より受託した「こどもスペース ∞（無限大）」（令和 5 年 2 月開設）は、旭学童保育会第 1 を拠点に運営は放課後等デイサービス部門と学童保育部門が中心となり取組み、子どもたちの居場所づくりと相談支援を通して家庭内の困りごとやヤングケアラー等の課題解決に向けて取り組みました。

今後の生活体系に係る施設再整備計画については、安全対策をはじめ個室化、ユニット化、定員等の条件や様々な課題があります。県市の障がい福祉計画と今後の動向、令和 6 年度障害福祉サービス等報酬改定の方角性を見定めながらも、現実的なニーズを鑑み慎重に検討を継続しました。今後の中長期計画に反映してまいります。公益的な取組みについては、コロナ 5 類移行後、出来る限りの継続に努めました。

防災の取組みについては、令和 6 年元日に発生した能登半島地震の対応については、（公財）日本知的障害者福祉協会を通して義援金を送金し、奥能登の被災施設へ応援職員の派遣を神奈川県知的障害施設団体連合会として令和 6 年 5 月より実施し協力しているところです。自然災害の脅威は首都圏にもいずれ来ますので、地域の防災拠点として機能できるように例年通り平塚市及び消防分団に総合防災訓練に立会いいただき助言をもらうなど準備を進めました。

以上、地域のニーズに応じて貢献する社会福祉法人としての役割を認識して、「共に生きる社会」の実現を目指して取り組みました。

I 《重点課題 法人運営》

1 柔軟的な法人運営を図るための役員・評議員体制について

役員及び評議員の定数は、定款上確定数としていましたが、国が示すモデル定款に則り定数に幅を持たせる変更を行い、任期途中の退任等が生じた場合も引続き法人運営を円滑に行える体制にしました。以上の定款変更申請は令和 5 年 8 月 15 日付で認可されました。

2 進和学園の中長期計画の作成について

利用者ご本人のライフサイクルを支える安心、安全の循環型サービスを、法人内ネットワークで構築し、関係専門機関等との連携をもって推進する総合支援サービス計画図をもとに検討を進めてきました。「本人中心」の理念のもと、生活のスタイルの多様化、日中活動・仕事の選択等について、ご本人が体験して「選んで決める」ことが原則です。そのための必要な支援サービスを整備することは法制度の動向、国連の障害者権利条約、令和 6 年度障害福祉サービス等報酬改定の方角性、県市の障がい福祉計画との関連が出てきます。特に、今後の総合的な再整備については、進和やましろホーム（築 38 年）及び進和あさひホーム（築 33 年）の老朽化対策と土砂災害警戒区域で急傾斜地の下にある「しんわやえくぼ」の安全対策の課題があります。このような状況を踏まえて、引続き中長期計画を検討してまいります。

3 福祉人材の確保・定着・育成について

新卒採用の促進において、採用人事サポートチームを中心に、コロナ対策に対応したオンライン面接などを積極的に活用し、推進してまいりました。新卒者の福祉人材が不足している中、サポートチームのアットホームで親しみやすい対応により、令和 5 年度は障がい部門 7 名と保育園

部門 3 名の採用となりました。また、中途採用においては、(公財)日本知的障害者福祉協会の紹介サイト(リクオプ)やハローワーク、インディード、職員の紹介などを活用し、令和 5 年度中に障がい部門 7 名、保育園部門 1 名、学童部門 6 名の採用となりました。さらに、育成に関しては、職員養成委員会や人材育成・人事考課制度委員会、人権委員会などが階層別研修やスーパーバイザー方式の活用、キャリアアップ研修などを推進しました。外部研修に関しても、コロナの影響を受けつつもオンラインを活用して推進してまいりました。

4 地域の困りごとの発見、解決に向けた相談体制と公益的な取組について

- ①平塚市支援対象児童等見守り強化事業(居場所型)と、生活困窮者自立支援法に基づく認定就労訓練事業を通して、虐待、家庭での養育・監督困難、ヤングケアラー、引きこもり・不登校、情報格差、狭間の障害など、地域の隠れた課題と困りごとの発見、相談、解決に取り組みました。核家族化、少子高齢化、地域コミュニティの希薄化、コロナ禍など様々な要因により変容し続ける社会では人々が直面する困難や生きづらさの多様化、複雑化は不可避です。地域内のさまざまな支援機関と関係者が情報を共有し求められるサポートを柔軟に提供する支援体制のあり方を検討する必要を実感しました。
- ②公益的な取組については、在宅障がい者に対する食事提供(実費)・生活支援、平塚市民の花なでしこの苗栽培と無料配布、湘南平あじさい管理、地域子どもたちの陶芸体験教室、地域ふれあい交流事業、環境緑化・環境教育、地域防災への協力、まちの活性化イベントへの協力等に取り組みました。

5 新型コロナウイルス感染症対策について

令和 5 年 5 月 8 日から感染症法上の 2 類相当から 5 類に移行されました。進和学園では医療機関や高齢・障害福祉施設等では重症化するリスクが高く慎重な対応が必要なため、感染予防対策について緩め過ぎず、過剰すぎないように対応をしました。しかし、各施設でクラスターが発生しました。9 月 12 日(火)～10 月 12 日(木)やましろホームで利用者 32 名、職員 3 名。11 月 23 日(木)～12 月 24 日(月)あさひホームで利用者 32 名、職員 6 名。行政専門機関と相談し円滑な対応に努めました。ワクチン接種につきましては、嘱託医の北山先生のご尽力により、6 月に第 6 回目 459 名、12 月に第 7 回目 413 名が接種できました。

II ≪重点目標 施設整備≫

1 生産事業推進体系の再編(製パン作業)について

サンメッセしんわの製パン作業で課題となっています販路拡大による増産体制につきましては、新たにしんわルネッサンス内に製パン作業室を整備する計画を令和 4 年 12 月 15 日の法人理事会にて承認をいただきました。日本財団 2023 年度通常募集事業の助成金の決定を受け、安江設計研究所の建築設計監理のもと成瀬産業株式会社による建築工事並びに三幸機械株式会社による製パン設備機器設置事業をサンメッセしんわ、しんわルネッサンスで推進してまいりました。計画どおり令和 6 年 3 月 29 日に建築工事が完了し引き渡しが行なわれました。4 月 10 日には製パン設備機器設置も完了しました。今後は生産事業の柱の一つとして利用者ご本人の社会的自立に繋がるよう、賃金・工賃の安定を目指します。

III ≪重点目標 管理運営面≫

1 人材育成の推進について

人材育成のための階層別研修は各層ごとに対面やリモートで実施しました。各施設でのスーパーバイザー方式は主に専門研修修了者のバイザーが新任職員など経験年数の少ない職員の人材育成・定着を図りました。成果につきましては年度末報告会をリモートで実施しました。キャリアアップ研修、国家資格取得奨励を職員養成委員会中心に行いました。職員の資質向上のための

外部研修を職員個々の希望をくみ取って推進しました。

2 職員研修について

新型コロナウイルス感染者が通年で散発的に出の中で、感染症法上の 5 類に移行したとはいえ、集合、対面、あるいは見学等、5 年度も研修活動は相応の影響を受けました。関係団体の研修大会もオンラインと対面のハイブリッド形式のものが多く、オンライン配信は大会よりかなり後の日程となります。全国施設長会、全国職員研究大会について、職員広報を作成、パソコンのシステムを通じて、全職員に配信しました。法人内においては、全職員を対象に意思決定支援をテーマとした第 2 回目の講演会を 2 月に ZOOM にて行ないました。施設現場見学会、5 年度は市役所（障がい福祉課、福祉ショップありがとう、夢のタネ）の見学を 4 年ぶりに行程に入れました（2 回、5 名参加）。理事長講話会も対面に 2 回、13 名が受講しました。

3 人事考課制度の確立について

法人理念をもとに職務遂行・貢献度に応じた評価を給与面・昇給に反映しました。そして人事考課を通じて職員のモチベーションアップにつなげました。人材育成・人事考課制度委員会で実態に即した評価内容を検討しました。

4 運営システムや IT の活用等について

コロナ禍以降、法人内の会議や打合わせは、Zoom や Skype などのオンラインツールを用いた遠隔形式が一般化しました。これにより移動時間が削減され、資料のペーパーレス化が進んだだけでなく、職員個々のスキルアップにもつながりました。今後の施設運営においても役立つものと期待されます。また HP・IT 推進委員会を定期開催し、ホームページや日誌（運営）システムの更新やチェックにも力を入れました。特に、ホームページは情報発信の重要な手段であり、タイムリーな更新に重点を置きました。また、セキュリティ面での管理にも継続的に取り組みました。

IV ≪重点目標 施設運営面≫

1 保育園部門の運営について

国が掲げた「異次元の少子化対策」の政策の中心となるのは子育て世帯への現金給付である児童手当の拡充（所得制限の撤廃）などでしたが、その他には「幼児教育・保育の質の向上」を目的とした「公定価格の改善」「職員配置基準の改善」が含まれ、保育士の処遇改善となりました。平塚市では、令和 5 年 10 月より「手ぶら保育の促進支援」を開始され、当法人の 3 園は令和 6 年 4 月から「おむつのサブスク」の開始に向け準備し保護者支援に努めます。

また、新型コロナウイルス感染症が令和 5 年 5 月に 5 類感染症に移行されたのち、11 月後半よりインフルエンザが流行し、2 月頃から新型コロナウイルス感染症の感染が慢性的に続きましたが、予定通りに行事等を実施出来、保護者の方々に保育園での子ども達の姿を見ていただき、子ども達の成長を共有することが出来ました。

2 放課後等デイサービスの推進について

「ビーライトしんわ」と「しんわブライト」の 2 事業所で放課後等デイサービス事業を運営しました。重度の障害を有する中高生を対象とした放課後支援と、発達障害児を対象としたグループ活動を主体とした進和学園独自の総合的発達支援プログラムを提供しました。

2012 年には 9 ヲ所であった市内の放課後等デイサービス事業所は年々増加し続け 38 ヲ所になりました。地域の事業環境が大きく変化する中で競争力を高め差別化をはかるため、地域の支援ニーズの調査、短期入所や作業実習など法人の経営資源との組み合わせによる特色のあるサービス支援の検討、放課後支援の対象年齢の拡大、サービス支援内容に関するわかりやすく訴求性の高

い情報発信の強化に取り組みました。

「ビーライトしんわ」の稼働率は前年度比上昇しましたが（放課後支援:69.4%→71.2%、中高生の発達支援:71.5%→77.9%）、小学生の発達支援を行う「しんわブライト」の新規利用者数が例年に比べ極端に少なかったため、稼働率が大幅に低下しました（68.4%→59.4%）。

平塚市子ども教育相談センターとの連携の下、平塚市立小中学校の巡回相談を実施しました。また、学校の先生方からの直接相談にも数多く対応し、普通級に在籍する配慮を要する児童のための学習環境の整備や対応支援方法の検討に協力しました。

3 学童保育の推進について

令和2年度から「勝原学童保育会」、令和3年度から「旭学童保育会」の運営を保護者会から引継ぎました。令和5年度も勝原、旭それぞれ第1、第2の2単位ずつ、計4単位で運営しました。就学児童数は減少していますが、学童保育のニーズは増加する一方です。児童の増加に合わせて職員の確保、特に有資格者（放課後児童支援員）を確保すべく資格研修を奨励し採用活動にも尽力したほか、放課後等デイサービス事業で培ったノウハウを活用し、多様な児童を年齢幅の広い特有の集団で保育することを通じて社会性の発達を支え人格形成の基盤づくりに寄与できるよう努めました。また、障害部門所属職員の応援配置の継続や本部事務局機能などで総合的に学童保育部門の運営をバックアップしました。

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、遠足、学校プール開放、クリスマス会、手づくり給食といった行事を再開。保護者会と運営委員会も対面開催しました。

子どもたちは「しんわやえくぼ」での陶芸体験に参加し、福祉へのふれあいを進めました。

4 意思決定支援について

令和5年度、進和あさひホームは、職員が意思決定支援の具体的な支援方法を習得するための「神奈川県意思決定支援実践研修」に参加し、あさひホームの全支援職員が利用者の意思を汲み取る方法（意思決定支援に係る手掛かりシート作成）に取り組みました。

法人内においては、意思決定支援プロジェクト委員会を設置し、各施設から委員を選出し、横断的にあさひホームが取り組んできた方法を共有し取組みました。今後もその方法を、進和学園全体に広めていきます。

5 やましろホームの再整備について

進和やましろホームは開所から38年が経過しました。高齢化、身体的重度化が顕著になり住環境の改善などが必要になりましたが、今以上の個室化、少人数居室化は難しい状況になっています。また昨年度からグループホームとの連携や法人所有の戸建て住宅を利用し、将来的な地域移行を目指した取り組みを計画しましたが、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの感染拡大があり、計画通りの取り組みができませんでした。重い行動障害のある方が地域移行をするためには、たくさんの課題があります。その課題を解決するために、戸建て住宅の見学を行い、こういった活動を提供できるのか、こういった利用ができるのかを、令和6年度への取り組みに向けて話し合いました。しんわ家族会にも戸建て住宅の見学をしていただき、将来的な活用について説明をしました。その中では、グループホームでの生活が難しくなった際には、入所施設の機能としてバックアップできることや、ライフサイクルの中の状態変化によって、入所施設をまた利用できる循環型サービスの体制等も説明しました。通所利用者の方については、短期入所の利用を継続的、計画的に受け入れ、家族のレスパイトだけでなく将来的に自立に向けた経験を重ねました。

6 多様なニーズに対応するグループホームについて

グループホームを利用されているご本人は障がいの重い方、高齢の方なども利用するケースが増えてきております。多様化するニーズに対応できるようなグループホームが必要となっています。休日・夜間体制の人員配置強化、身体的介護、健康管理、栄養管理の強化を図り、どなたでも利用できる体制が必要となり改善に努めました。

7 相談支援事業について

サンシティひらつかにおいて、平塚市委託事業である障害者一般相談 2,653 件や障害サービス利用計画 865 件（成人計画 292 件、モニタリング 560 件、児童計画 6 件、モニタリング 7 件）、障害認定区分調査 110 件を実施しました。

広域の就労支援事業では、新規就労支援や定着支援を実施し、登録者は 847 名（R5 年度末）で相談支援件数は 6,223 件、就職件数は 61 件でした。相談支援対象者の数は年々増加。特に精神障がい者、発達障がい者の増加が著しく相談支援件数の約 50%を占めています。難しいケースも多くなり、高い支援スキルが求められています。また一般企業の法定雇用率も令和 5 年 4 月から 2.5%へ引き上げになり、企業からの支援ニーズが高まっています。他にも地域の自立支援協議会就労支援部会や県西地区の障害者就業・生活支援センターと連携し地域の就労支援機関に対して連絡会議、支援機関や企業に対して研修会を開催しました。関係機関との連携を強化することで湘南西部圏域の障がい者就労支援の中心的役割を果たしました。障害者一般相談、就労支援の両部門ともニーズの高まりと多様性が深まっており、事業の推進に努力しました。

8 生活体系の検討・推進について

- ① 保健活動は、令和 5 年度も新型コロナウイルス感染症の感染防止策を中心に衛生管理の徹底を図りました。保健委員会と法人、施設長会の協調のもと、利用者ご本人、ご家族および職員に対して、引き続き感染防止対策の徹底の呼び掛けを行いました。利用者ご本人の高齢化、重度化に対し医療機関との連携の必要性が高まっています。入所施設に限らず、通所系の事業所においても、ご本人・ご家族の高齢化が進んでおり、通院等の協力も行っております。利用者ご本人の通院に関する業務や内服薬の管理、毎月の血圧・体重の計測、日常の衛生への呼びかけを実施。また年 2 回の嘱託医による健康診断をはじめ、各種検査（胸部レントゲン、血液検査、尿検査、検便等）の他、口腔健診も実施しました。人間ドック（78 名受診）、婦人科健診（19 名受診）の結果をふまえ、健康の維持・増進、疾病の早期発見・早期治療を図るため個別的な具体策を計画・実施しました。インフルエンザ対策としてはワクチンの接種（利用者と職員の全体で 621 名）を実施し、肺炎球菌ワクチンも対象者に接種しました。また職員の人間ドックについては健康助成規定により実施（141 名受診）しました。
- ② 防火管理者会では各事業所の本人防災委員と共同で活動しました。毎年、平塚市災害対策課、地域消防団の協力のもと、総合防災訓練を行なっています。11 月 8 日に万田・高根地区で実施、11 月 16 日に土屋・吉沢地区で実施しました。その他にも毎月 1 回、各事業所で地震・火災のみならず、近年増加している自然災害を想定した非常災害訓練も行ないました。AED・心肺蘇生法の技術の向上を目指し、講師の資格を保有している職員が講師となり講習会も行ないました。新型コロナウイルス感染症の対策については、法人・施設長会や、その他の委員会と連携して行ないました。
- ③ 地域生活支援の拠点機能として、法人全体で、短期入所枠は計 26 床（やましろ 4、あさひ 4、はばたき 10、万田 8 単独型）あり、在宅で障がいのある方の地域生活を支える機能、グループホームのバックアップ機能、緊急ケースの対応などの機能を果たしました。令和 5 年度は新型コロナウイルス感染症が 5 月 8 日より 5 類に移行し、基本的に季節性インフルエンザと同様の対応と

なりましたが、実際は法人内各施設、事業所において、クラスターの発生や陽性者は多くありました。各施設、事業所は感染拡大防止のため、陽性者の療養期間終了までにやむを得ない事情で利用される方以外のご利用については、ご理解、ご協力のもと調整させて頂きました。

令和 5 年度の実績は、万田ホームは短期入所 2,714 件、日中一時支援 745 件。

やましろホームは短期入所 1,457 件、日中一時支援 267 件。あさひホームは短期入所 1,004 件、日中一時支援 139 件。はばたき進和は短期入所 1,769 件、日中一時支援 85 件を実施しました。

9 作業体系について

- ① ホンダ車部品組立作業は、本田技研工業(株)様のご支援のもと、50 年目を迎えました。6 8 カ月間にわたり「ミスゼロ」を継続し、品質管理に注力してまいりました。令和 5 年度には、コロナ禍を脱し、半導体不足も解消されたことから、一定量の生産量が回復しました。また、令和 4 年度中に本田技研工業(株)様の特別な支援により部品価格の改定が行なわれ、大きな効果がありました。その結果、加工賃収入は 98,653 千円となり、前年比で 25%増加しました。しかしながら、EV 自動車の普及により受注状況は依然として不確実な状況が続いています。引き続き、(株)研進と協力して受注確保に努めました。
- ② 自主生産事業の作業収入はコロナ禍ではありますが、イベント等も徐々に開催され、226,860 千円となり、前年度比+13,336 千円で+6.2%と過去最高となっています。
- ③ サンメッセは平塚商工会議所の逸品研究会等へ参加、市内商工関係者と連携のもと製品開発、販路拡大に努めました。コロナウイルス感染症が 5 類へ移行し、各種販売イベントはコロナ禍前の状況以上に開催されており、令和 6 年 3 月に横浜赤レンガ倉庫で開催された「パンのフェス」へ参加しました。今回もフェスで開催されたパン屋さんの新商品のアワード（表彰）が行なわれ、サンメッセの新商品「やまと豚キングドック」や利用者の方が考案した限定ぱんを販売しましたが入賞には至りませんでした。それでも利用者皆さんの技術、熱意を伝えることができて大変好評でした。「湘南みかんぱん」の平塚市ふるさと納税返礼ギフトは 17 件の注文でした。平成 30 年 4 月より湘南ひらつか名産品としても認定され、令和 5 年 2 月にあらためて認定されました。製菓班は平塚逸品研究会においてチーズスフレを販売し、「ひらつか逸品準グランプリ」を受賞しました。今後も生産事業の販路拡大と衛生管理の徹底に努めてまいります。
- ④ ルネッサンスの農産品加工事業は、11 年目を迎えました。「湘南とまと工房トマトジュース」は、第 64 回全国推奨観光土産品審査会において食品部門で最優秀の「農林水産大臣賞」を受賞しました。また、「平塚市ふるさと納税返礼品」への登録や「湘南ひらつか名産品」の認定も受けています。受託加工については、80 を超える個人農家・業者からの受託があり、売上は 25,670 千円と過去最高を記録しました。通信販売も好調で、売上は 15,920 千円に達しました。食の安心・安全の観点から、HACCP（食品の製造過程管理基準）に基づく衛生管理にも努めました。
- ⑤ いのちの森づくりは(株)研進と協同で、学校の森づくりをはじめ、湘南国際村、NEXCO 高尾・小仏植樹祭、新東名秦野丹沢の植樹等に参加しました。また豊島区より緑化推進のための苗木配布も行ないました。令和 5 年度の苗木の出荷数は 17,727 本となりました。平成 21 年度よりの累計出荷数は 365,026 本となりました。さらなる開拓を推進し、他法人施設との連携（どんぐりブラザーズ）に努めてまいります。

- ⑥ 令和 5 年度より新たな施設外就労として平塚高村住宅管理組合様より団地内の清掃業務を請負い、地域社会と連携しながら取り組みました。しまむらストア様とは継続してバックヤード作業に 2 グループ、環境整備に 1 グループを配置し作業に取り組みました。また各店舗にて進和学園自主製品を販売する「進和学園フェア」を定期的実施させていただき、継続的な連携を深めました。
- ⑦ 在宅就業支援制度の在宅就業障害者特例調整金の活用は、しまむらストア様、(株)研進を窓口として本田技研工業(株)様が対象となりました。制度の活用と周知を図り、受注拡大に努めました。
- ⑧ ルネッサンスは湘南西地区および平塚市の共同受注窓口として、地域の福祉事業所とのネットワーク構築や受注作業のマッチング機能を推進しました。受注量が増加し、連携する事業所も増えており、さらなる協力体制の強化に努めました。現在、水道メーターの分解、どんぐり関連作業、公園清掃などで 13 の事業所と連携しています。また、平塚市ビルメンテナンス業協同組合様から平塚市聖苑の除草作業を受注し、これを推進しました。
- ⑨ ともしびショップ湘南平は、内装改修後、平成 30 年 3 月 25 日よりリニューアルオープンし、サンメッセしんわと一体的に運営しております。1 階の喫茶部門は、ホットケーキの店「湘南リトルツリー」として進和学園内で生産するパン類やトマトジュースなどを食材として活用するメニューや新たに他の福祉事業所の商品「サラカレー」とサンメッセのナンをセットにしたメニューを加え、事業所間連携を推進しました。販売部門はコロナウイルス感染予防に配慮して自主生産品やお土産グッズ等を常設販売しました。就労支援として利用者ご本人の実習を継続し実施しました。2 階は活動スペースエリアとして幅広く活用し、展示や販売をはじめレンタルスペースとしてのニーズが増えております。また、(株)研進の支援により外テラスにウッドデッキを増設し集客を図りました。
- ⑩ 平塚市役所の 1 階東側多目的スペースにおける福祉ショップ「ありがとう」は令和 5 年 7 月で丸 9 年を迎えました。運営は平塚市内福祉関係団体がひとつになり組織した「ひらつか福祉ショップ運営協議会」が主体となり、進和学園はその事務局を担当し事業を推進しました。多くのお客様にご来店いただき、また平塚市からの優先調達や市内企業による継続的なご発注もあり売上向上につながりました。進和学園の売上は 10,386 千円で過去最高となりました。また生産事業推進会議パフォーマンス部会の FM 湘南ナパサ 78.3MHz のラジオ番組(ナパサクラブ制作)「バリア!フリフリ天国」(毎週月曜 20:00~20:30)に利用者ご本人が中心にパーソナリティとして参画し、福祉現場からの情報発信、福祉啓発に努めました

10 本人活動について

しんわ本人自治会連合会では、「自分で選んで自分で決める」「本人中心」を徹底してまいりました。令和 2 年度から新型コロナウイルス感染症の影響により通常の活動は控えてきましたが、令和 5 年 5 月より 5 類に移行され、少しずつ通常の形に戻し、「しんわ本人自治会連合会定例役員会」は対面で行なうようにしました。「しんわ本人自治会連合会決算総会」も 4 年ぶりに対面で行う予定でしたが、あいにくの荒天により、書面での議決となりました。また、令和 5 年度もしんわ本人自治会連合会が中心となり、年末募金活動を実施しました。募金のお届けは日程を調整し、令和 4 年度分を令和 5 年 12 月 25 日に平塚市長並びに各団体へ、しんわ本人自治会連合会役員代表がお届けしました。ご本人方の余暇の同好会活動や各種行事は、「しんわ文化スポーツ振興会」との協力体制のもと、少しずつではありますが元の活動に戻しています。

11 しんわさわやか相談室

例年あじさいまつりの期間中に法人さわやか相談室を開催し、各事業所からの報告を基に法人

相談員の方々との意見交換が行われていましたが、令和 2 年度から新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、あじさいまつりを中止したこともあり、令和 5 年度も対面開催は中止とし、相談員の方々には書面報告としました。各施設においては日頃より多様な相談を貴重なご意見として受けとめ、真摯な対応に努めました。

1 2 主な全体行事

- ① 第 71 回湘南ひらつか七夕まつり（令和 5 年 7 月 7 日～7 月 9 日）は予定通り開催され、進和学園からは「未来へとどけ！みんなの願い」をテーマに竹飾りを掲げました。竹飾りのコンクールでは「昼の部」におきまして「入選」となりました。また、「第 22 回さわやか文化スポーツ大会」も規模縮小ではありますが、4 年ぶりに開催することができました。ひらつかサン・ライフアリーナに約 480 名が一堂に集まり、スポーツを楽しむことができました。
- ② 本田技研工業㈱様には、七夕まつりの期間中に埼玉製作所より 5 名の方がご来訪くださり、各事業所をご視察いただき、交流を深めました。クリスマス交流会では、購買部門より 12 名の方がサンタやトナカイに扮してご来訪くださいました。久しぶりに、とびっきりレインボーズの演奏で盛り上がることができました。利用者本人および職員全員に特製の T シャツとクリスマスプレゼントを 860 名分いただきました。
- ③ 天神まつり
地元自治会及び地域の皆さまにお集りいただき毎年天神まつりを計画していましたが、新型コロナウイルス感染防止のため、地域を交えてのイベントは中止としました。1 月 25 日の初天神の日に規模を縮小して、万田ホームの利用者ご本人と職員にてお参りをしました。

1 3 月報しんわ

進和学園の活動報告や情報発信の手段として、「月報しんわ」を昭和 50 年より発行しています。月報編集委員会が中心となって、読みやすく且つ内容の充実に努めました。令和 5 年は行事等も徐々に再開し、3 か月ごとに 1,390 部を発行しました。関係者はじめ地域、ボランティア、社会ご支援者、行政関係に配布し、ホームページでも公開し情報開示に努めました。

V《職員の処遇について》

一人一役を合言葉に、一人ひとりが学園運営に参加することを主眼に各種事業を展開しました。

1 職員互助会について

職員の福利厚生を推進するため、法人全職員参加のもとに互助会を設立して 27 年。有効に運用され、職員の安心感は深いものがあります。令和 5 年度は職員健康共済規定出産休業援助事業による出産給付金支給は 3 名（給付額 365,604 円）、一般疾病による療養給付金支給は 11 名 29 件（給付額 2,102,699 円）、傷害保険の利用は 15 名 16 件（保険金 1,246,000 円）でした。しんわ家族会様には、互助会設立以来継続しての助成に深く感謝いたします。

2 労務について

職員が働きやすい職場環境を目指す為の一環として、今年度は、労務委員会で労務アンケートを実施しました。回答のあった質問、意見については労務委員会で纏め、法人と協議しました。法人からは質問に対する説明と改善策を提案し、令和 6 年 4 月から準職員の 1 時間単位での時間休取得を導入、職務手当の中に主任業務加算（主任手当）を 6 月より新設することになりました。来年度もより良い職場環境が構築できるように努めてまいります。

3 永年勤続表彰感謝について

令和 5 年度永年勤続者は、勤続 5 年(14 名)、10 年(15 名)、15 年(10 名)、20 年(8 名)、25 年

(9名)、30年(2名)、45年(1名)、計59名でした。新型コロナウイルスの感染拡大により、例年6月に実施していた全員での感謝式は延期し、障害部門は12月6日(水)、14日(木)、保育園部門は12月19日(火)に分散して行い、感謝金を贈り表彰感謝を実施しました。

5年度末の職員数407名のうち、継続職員255名、嘱託職員23名、準職員129名となります。
(常勤職員率68.30%。内訳は男性89.26%、女性56.20%)

男性職員は149名、平均勤続年数16.28年、平均年齢45.94歳です。

女性職員は258名、平均勤続年数10.07年、平均年齢45.27歳です。

VI《理事会・評議員会の開催状況について》

理事会 令和5年6月8日(木)	理事9名 監事2名	第1議案 令和4年度事業報告について 第2議案 令和4年度決算報告について 社会福祉充実残額について 監事監査報告について 第3議案 定款変更について 第4議案 任期満了に伴う役員改選の役員候補者について
評議員会 令和5年6月23日(金)	評議員6名 監事2名 理事長	第1議案 令和4年度事業報告について 第2議案 令和4年度決算報告について 社会福祉充実残額について 監事監査報告について 第3議案 役員の選任について 報告事項 令和5年度事業計画及び当初予算について
理事会 令和5年6月23日(金)	理事6名 監事2名	第1議案 理事長の選定について 第2議案 評議員会の書面決議(定款変更)について
理事会 令和5年11月30日(木)	理事8名 監事2名	第1議案 令和5年度第1次資金収支補正予算について 第2議案 しんわルネッサンス製パン作業室の整備について 第3議案 県指導監査結果報告に係る改善報告について (しらゆり保育園、いずみ保育園) 第4議案 規程等の一部改定について
理事会 令和6年3月21日(木)	理事8名 監事1名	第1議案 令和5年度第2次資金収支補正予算について 第2議案 令和6年度事業計画(案)について 第3議案 令和6年度当初予算(案)について 第4議案 規則・規程等の一部改定について 第5議案 平塚市法人指導監査の結果について 報告事項 しんわルネッサンス製パン作業室整備の経過について しんわやえくぼ急傾斜地崩壊対策工事について

令和6年6月6日
社会福祉法人 進和学園